

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9129	大正12年	冬の部	枯れ / \し藪や茨の実生きてあり	枯茨	植物
9130	大正12年	冬の部	叫ぶものに皆いのちある吹雪哉	吹雪	天文
9131	大正12年	冬の部	冬川を渡らんと思ふ狐哉	冬川	天文
9132	大正12年	冬の部	冬川を偶々過ぎし雀かな	冬川	天文
9133	大正12年	冬の部	冬川に何する人と鴉かな	冬川	天文
9134	大正12年	冬の部	煙揚げて凧の日を山仕事	凧	天文
9135	大正12年	冬の部	一軸の外凧や茶味禅味	凧	天文
9136	大正12年	冬の部	凧の風ぎて不斷の泉哉	凧	天文
9137	大正12年	冬の部	凧の中にいさかふ小者哉	凧	天文
9138	大正12年	冬の部	凧の響き渡りぬ寺林	凧	天文
9139	大正12年	冬の部	凧に生きて届きし海峯哉	凧	天文
9140	大正12年	冬の部	凧や寺に寄合ふ小作人	凧	天文
9141	大正12年	冬の部	凧や馬を犒ふ小百姓	凧	天文
9142	大正12年	冬の部	凧や馬引き返る年貢人	凧	天文
9143	大正12年	冬の部	凧の中に尚在り賣茶翁	凧	天文
9144	大正12年	冬の部	凧や火明り断えぬ一部落	凧	天文
9145	大正12年	冬の部	凧に木つゝく鳥の忙がしき	凧	天文
9146	大正12年	冬の部	凧に物貯へむ土掘りつ	凧	天文
9147	大正12年	冬の部	飢鳥枝に犯さんと欲す氷餅	氷餅	人事
9148	大正12年	冬の部	梅槎枒たり軒に聯ねし氷餅	氷餅	人事
9149	大正12年	冬の部	氷餅初更の水を出にけり	氷餅	人事
9151	大正12年	冬の部	雪皎々この一ところ塵もなし	雪	天文
9152	大正12年	冬の部	雪積みて黄泉いよゝ遠きかな	雪	天文
9154	大正12年	冬の部	筆凍てゝ今はた消えし面影よ	凍る	天文
9155	大正12年	冬の部	墓邊護る冬木の枝の細々と	冬木	植物
9156	大正12年	冬の部	寒ン晴に藪下水の光かな	寒晴	天文
9157	大正12年	冬の部	手に在りて鋸鈍き寒さかな	寒さ	時候
9158	大正12年	冬の部	雪雲の又しも我にかぶさりぬ	雪	天文
9159	大正12年	冬の部	雪の山深く入にし獵夫かな	雪山	天文
9160	大正12年	冬の部	鬣の雪揮ひけり廢口	雪	天文
9161	大正12年	冬の部	一方に照返す日や雪戰	雪遊び	人事
9162	大正12年	冬の部	雪に伏す竹や夜学の小提灯	雪	天文
9163	大正12年	冬の部	大雪の門辺煤日のはした女等	雪	天文
9164	大正12年	冬の部	庭椿の雪すべり落つ日の匂ひ	雪	天文
9165	大正12年	冬の部	雪堅し杉の下道社まで	雪	天文
9166	大正12年	冬の部	雪の暮何に宿らむ小禽哉	雪	天文
9167	大正12年	冬の部	家雪にうもれて午の鶏鳴きぬ	雪	天文
9168	大正12年	冬の部	薄雪の足痕よべの千鳥かな	雪	天文
9292	大正12年	冬の部	時雨めきて菊の葉ぬらすあまたゝび	時雨	天文
9294	大正12年	冬の部	大根引く里川木葉流るゝに	大根引	人事
9295	大正12年	冬の部	菊未だ枯れず大根引く庵よ	大根引	人事
9296	大正12年	冬の部	洗上げて大根月夜となりけり	大根	植物
9297	大正12年	冬の部	暮雲紅し大根引かれし畠の上	大根引	人事
9298	大正12年	冬の部	風呂吹と僧に乞はれつ大根引	大根引	人事
9299	大正12年	冬の部	金福寺句座の人見ゆ大根引	大根引	人事
9300	大正12年	冬の部	門外に大根の馬を駐めけり	大根	植物
9301	大正12年	冬の部	寺庭に年貢の大根積にけり	大根	植物
9302	大正12年	冬の部	路の邊の芒も刈りぬ大根引	大根引	人事

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9303	大正12年	冬の部	大根引く我参勤のお大名	大根引	人事
9305	大正12年	冬の部	短日の舟寄るべなき大河哉	短日	時候
9306	大正12年	冬の部	筆硯勿々枯菊を顧みず	枯菊	植物
9307	大正12年	冬の部	枯菊の雨も乾かず暮にけり	枯菊	植物
9308	大正12年	冬の部	古松を便りに住むや菊枯るゝ	枯菊	植物
9309	大正12年	冬の部	枯菊の小家出でゆく獵夫哉	枯菊	植物
9310	大正12年	冬の部	枯菊を刈て書齋に退きぬ	枯菊	植物
9311	大正12年	冬の部	短日や馬に賃して曠野ゆく	短日	時候
9312	大正12年	冬の部	短日の山の尖りの雲明かき	短日	時候
9313	大正12年	冬の部	短日や例の刻來る郵便夫	短日	時候
9314	大正12年	冬の部	暮早し枯木の中の人声	短日	時候
9315	大正12年	冬の部	大根畑見渡せば富士眞白なり	大根	植物
9317	大正12年	冬の部	蕪の神大根の神や神謀り	雑	雑
9326	大正13年	冬の部	このたびの果しも知らず冬日哉	冬の日	時候
9328	大正13年	冬の部	いへぬちに溢るゝ聲や雪の上	雪	天文
9330	大正13年	冬の部	日當れば冬木に倚らむ思哉	冬木	植物
9331	大正13年	冬の部	などでこの涙凍らんひまも無き	凍る	天文
9332	大正13年	冬の部	その跡を追へども雪の果もなき	雪	天文
9334	大正13年	冬の部	早梅のそらだきものや御文筥	早梅	植物
9335	大正13年	冬の部	鳳笙鸞竿み空の霜に振ひけり	霜	天文
9470	大正13年	冬の部	冬嶺を看るに忍びず秀孤松	冬山	天文
9471	大正13年	冬の部	筐底をさぐりつくしぬ小夜しぐれ	時雨	天文
9472	大正13年	冬の部	例年の男傭うて冬構	冬構	人事
9475	大正13年	冬の部	凍蝶も知章が馬に舞出でぬ	凍蝶	動物
9476	大正13年	冬の部	冬ごもり硯の田地たのもしき	冬籠	人事
9478	大正13年	冬の部	此寒さ不識といふぞ愚なる	寒さ	時候
9480	大正13年	冬の部	補陀落の岸か浪路か小夜千鳥	千鳥	動物
9481	大正13年	冬の部	画幅もちて濡れじと人來しぐるゝ日	時雨	天文
9483	大正13年	冬の部	大儒迎ふ綴の錦京しぐれ	時雨	天文
9485	大正13年	冬の部	石玄黄几上霜見る冬籠	冬籠	人事
9486	大正13年	冬の部	樹の枝の雪ちる中や朝の人	雪	天文
9497	大正14年	冬の部	古妻の暇あれや輝薬貼る	皶	人事
9499	大正14年	冬の部	筆法に似たるものなし冬木立	冬木	植物
9500	大正14年	冬の部	折ふしの雀も寒の名残哉	寒	時候
9502	大正14年	冬の部	顧みて又冬川を越ゆらんか	冬川	天文
9503	大正14年	冬の部	雪穴に陥りしこそ不覚なれ	雪	天文
9505	大正14年	冬の部	雪ふりやまず梅の花に寒からむ	雪	天文
9507	大正14年	冬の部	梅も咲かねど適く所あり鶴に騎る	鶴	動物
9647	大正14年	冬の部	落葉二ツ廿年の情百里の感	落葉	植物
9649	大正14年	冬の部	手應への重さ軽さや莖の石	莖漬	人事
9651	大正14年	冬の部	枯野行く / \ 馬の蹄の高鳴に	枯野	天文
9652	大正14年	冬の部	風吹いて我を露はに枯野哉	枯野	天文
9653	大正14年	冬の部	北風を避くべきもなし馬の上	北風	天文
9655	大正14年	冬の部	むらしぐれ幾たび馬の躓きぬ	時雨	天文
9656	大正14年	冬の部	うつむきてしぐるゝまゝや馬の上	時雨	天文
9657	大正14年	冬の部	我馬や伏屋の落葉踏鳴らす	落葉	植物
9658	大正14年	冬の部	游草の悪句刪らむ年忘	年忘	人事
9661	大正14年	冬の部	數知れぬ落葉の中の二片か	落葉	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9662	大正14年	冬の部	墓石に雨と降りけむ落葉是	落葉	植物
9671	大正15年	冬の部	冬の水いづち潜りて流れゆく	冬の水	天文
9673	大正15年	冬の部	蝶鳥の間静かに追儼	追儼	人事
9675	大正15年	冬の部	雪深しこの一筋の道祖神	雪	天文
9676	大正15年	冬の部	杉村の家々はたきをり煤筵	煤拂	人事
9677	大正15年	冬の部	杉村や黛つくる雪の山	雪山	天文
9678	大正15年	冬の部	大川の岸高み煤はたきをり	煤拂	人事
9679	大正15年	冬の部	煤はたく音大川を渡りくる	煤拂	人事
9905	大正15年	冬の部	紅葉ちりて菊の高さに廬せり	散紅葉	植物
9907	大正15年	冬の部	巖角や霜に嘯く帟の鬚	霜	天文
9908	大正15年	冬の部	人待てバ芒ちる見ゆ日短に	短日	時候
9909	大正15年	冬の部	時ならぬ砧打出す日短に	短日	時候
9910	大正15年	冬の部	短日や搗きこぼしたる畑つ物	短日	時候
9911	大正15年	冬の部	短日や賣れて乏しき唐辛子	短日	時候
9912	大正15年	冬の部	海山の風北になり暮急ぐ	短日	時候
9914	大正15年	冬の部	達磨忌の一時猛雨の人絶えし	達磨忌	人事
9916	大正15年	冬の部	庭上の霜に傲るハ何々ぞ	霜	天文
9917	大正15年	冬の部	凧や倉廩満ちて人往來	凧	天文
9918	大正15年	冬の部	凧や脂がゝりし魚の味	凧	天文
9919	大正15年	冬の部	凧や京のくさびら遅れつく	凧	天文
9920	大正15年	冬の部	凧の庵を見せけり裏の山	凧	天文
9921	大正15年	冬の部	凧に陵荒るゝ涙かな	凧	天文
9922	大正15年	冬の部	凧や木葉の下の硯石	凧	天文
9923	大正15年	冬の部	凧や狸のわざの水止まる	凧	天文
9924	大正15年	冬の部	凧に膝つき合はず庵淺し	凧	天文
9925	大正15年	冬の部	凧や銀杏葉溜る一ト所	凧	天文
9926	大正15年	冬の部	凧に紙一帖の使かな	凧	天文
9927	大正15年	冬の部	到來の五升の酒も冬構	冬構	人事
9928	大正15年	冬の部	思ひきや芋山の如し冬構	冬構	人事
9929	大正15年	冬の部	佗ぶらくハ嵐と住まん冬構	冬構	人事
9930	大正15年	冬の部	冬構梅の古木ハ与からず	冬構	人事
9931	大正15年	冬の部	我庵ハ冬を構へず山河在り	冬構	人事
9933	大正15年	冬の部	夢なれや天地に盈つる河豚の氣	河豚	動物
9935	大正15年	冬の部	凧に水の甘さを覚ゆらむ	凧	天文
9939	大正15年	冬の部	凧や家に居て柚子の包解く	凧	天文
9940	大正15年	冬の部	凧を遠く至りぬ柚子も葉も	凧	天文
9942	大正15年	冬の部	ふぐ汁の父の獨に灯しけり	河豚汁	人事
9943	大正15年	冬の部	河豚の眼や磯の社の常緑樹	河豚	動物
9944	大正15年	冬の部	河豚汁や窓の外行く紅毛人	河豚汁	人事
9945	大正15年	冬の部	河豚の座や果實が装ふ一緑葉	河豚	動物
9946	大正15年	冬の部	ふぐの友二たび三たび會しけり	河豚	動物
9948	大正15年	冬の部	大霜の後の菊觀し幾人ぞ	霜	天文
9949	大正15年	冬の部	只斯の心菊を枯れしめず	枯菊	植物
9950	大正15年	冬の部	用もなき曆買ふなり主人ぶり	曆売	人事
9954	昭和2年	冬の部	筆の穂の凍ることなき力哉	凍る	天文
9956	昭和2年	冬の部	ひたぶるに蹶はらゝかす深雪哉	雪	天文
9957	昭和2年	冬の部	朝な / \ 雪の淨らや島咽ぶ	雪	天文
9958	昭和2年	冬の部	春近し一雨に遷る鶴の群	春近し	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9959	昭和2年	冬の部	誰々に紅買ひやらむ春鄰	春近し	時候
9960	昭和2年	冬の部	芹かあらぬか春まちごゝろさゝ流れ	春待	時候
9961	昭和2年	冬の部	せゝらぎや春まちごゝろ芹を見る	春待	時候
9962	昭和2年	冬の部	ともしさのつとも春まつ帰省哉	春待	時候
9963	昭和2年	冬の部	日々消ぬる獸の踪や春鄰	春近し	時候
9965	昭和2年	冬の部	行年や追失ひし紙魚一ツ	行年	時候
9966	昭和2年	冬の部	行年や帙にうするゝはなだ色	行年	時候
9967	昭和2年	冬の部	水鳥の浮くも潜るも浄土哉	水鳥	動物
10164	昭和2年	冬の部	山眠る中に群松吼ゆる哉	山眠る	天文
10165	昭和2年	冬の部	百姓に教へて倦まず山眠る	山眠る	天文
10166	昭和2年	冬の部	昔ながらの山眠るさへ人戀し	山眠る	天文
10167	昭和2年	冬の部	渉らじのせみの小川や山眠る	山眠る	天文
10168	昭和2年	冬の部	鳩の湖は古き深さよ山眠る	山眠る	天文
10170	昭和2年	冬の部	魯細し鳥海の裏おろす風	魯	植物
10171	昭和2年	冬の部	山峽や枯れぬ尾花に家幾つ	芒	植物
10172	昭和2年	冬の部	霜の後の月岩山にかゝりけり	霜	天文
10173	昭和2年	冬の部	草枯や海士が墓皆海に向く	草枯	植物
10175	昭和2年	冬の部	短日をちり尽す沙羅双樹の葉	短日	時候
10176	昭和2年	冬の部	樅の実を啄む鳥もなかりけり	木の實	植物
10178	昭和2年	冬の部	鶏頭の種採ることを咎むるな	鶏頭	植物
10179	昭和2年	冬の部	詩仙堂に寄らで小春を帰洛哉	小春	時候
10181	昭和2年	冬の部	短日の風争ふや四派の松	短日	時候
10182	昭和2年	冬の部	朱の椀にすこし飯盛る霜夜哉	霜	天文
10183	昭和2年	冬の部	小春日の暮るゝに近し水煙	小春	時候
10184	昭和2年	冬の部	小春日や暮れて竹鳴る嵯峨戻り	小春	時候
10185	昭和2年	冬の部	花の種むさぼり採りぬ日の小春	小春	時候
10186	昭和2年	冬の部	小春日のつゞくらし宵々の月	小春	時候
10187	昭和2年	冬の部	進一步霜を挟まぬ石もなし	霜	天文
10188	昭和2年	冬の部	わうじきの調べや鐘の幾時雨	時雨	天文
10190	昭和2年	冬の部	菊昔ながら畿内の霞かな	菊	植物
10192	昭和2年	冬の部	数へ來る木菴即非茶の蕾	茶の花	植物
10193	昭和2年	冬の部	黄檗の道場冬の片日哉	冬	時候
10195	昭和2年	冬の部	かりそめに訪ふ旧蹟や日短き	短日	時候
10196	昭和2年	冬の部	短日や指僕へて國遠し	短日	時候
10197	昭和2年	冬の部	短日や誰ぞ下り來る大悲閣	短日	時候
10198	昭和2年	冬の部	短日や鷺の声悪み客の去る	短日	時候
10200	昭和2年	冬の部	短景に鳥を點ずる梢哉	雑	雑
10202	昭和2年	冬の部	帯解の子安に柿を奉る	柿	植物
10203	昭和2年	冬の部	片枝の紅葉さしいでつ吉野口	紅葉	植物
10204	昭和2年	冬の部	香具山の霧おろしけり青蜜柑	霧	天文
10205	昭和2年	冬の部	歌垣の昔を匂へ草の花	草花	植物
10207	昭和2年	冬の部	川波をくゞるは国栖の何落葉	落葉	植物
10209	昭和2年	冬の部	さながらに菊伏す山路間なき雨	菊	植物
10210	昭和2年	冬の部	濃かに野菊咲残る笠置道	野菊	植物
10211	昭和2年	冬の部	吉の山竹もしぐるゝ宿り哉	時雨	天文
10212	昭和2年	冬の部	太閤ハしくれを知らずよしの山	時雨	天文
10213	昭和2年	冬の部	炭ついでしぐれに居りぬよしの山	時雨	天文
10214	昭和2年	冬の部	そのかみや珠も錦もしぐれつゝ	時雨	天文



No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10215	昭和2年	冬の部	旅の髭伸びぬ吉野はしぐれつゝ	時雨	天文
10217	昭和2年	冬の部	しぐれ来て提灯消えつ御陵道	時雨	天文
10218	昭和2年	冬の部	常盤木のしぐれ畏しよし野山	時雨	天文
10219	昭和2年	冬の部	一處落葉つもりぬよしの山	落葉	植物
10220	昭和2年	冬の部	陵やありとも見えぬしぐれの灯	時雨	天文
10222	昭和2年	冬の部	神ながら古りゆく神輿幾しぐれ	時雨	天文
10224	昭和2年	冬の部	とく / \ の清水を後に日短き	短日	時候
10226	昭和2年	冬の部	石はしる水よ落葉よ五百年	落葉	植物
10228	昭和2年	冬の部	壮士が鎧の塵か草紅葉	草錦	植物
10230	昭和2年	冬の部	子規の字の為山のと浪花夜寒なる	夜寒	時候
10232	昭和2年	冬の部	青に黄にお手々の蜜柑つぶらなる	蜜柑	植物
10233	昭和2年	冬の部	之にしあれや旅の夜寒の袖ふるゝ	夜寒	時候
10234	昭和2年	冬の部	吉野出て見はてぬ夢の千鳥哉	千鳥	動物
10236	昭和2年	冬の部	露霜の結ばむ草木無かりけり	露霜	天文
10237	昭和2年	冬の部	凧の石に留めず雲の影	凧	天文
10239	昭和2年	冬の部	牛祭すぎで戀しき三十年	牛祭	人事
10241	昭和2年	冬の部	ひし / \ と霜に鳴りけむ巨枝大葉	霜	天文
10245	昭和2年	冬の部	俗めくや落柿舎の柿落葉ふむ	柿落葉	植物
10247	昭和2年	冬の部	色紙へぎて後の寒さに誰かゐる	寒さ	時候
10248	昭和2年	冬の部	旅に在りて何を主や嗟峨の月	月	天文
10249	昭和2年	冬の部	茶の花の咲き澄みて人知れずこそ	茶の花	植物
10251	昭和2年	冬の部	秋深し神馬も戀ふる五十鈴川	秋深し	時候
10252	昭和2年	冬の部	しだり尾の長鳴鳥や夕紅葉	紅葉	植物
10254	昭和2年	冬の部	糸瓜見る因みに憶ふ三十年	糸瓜	植物
10255	昭和2年	冬の部	雁來紅上野の森ハ見えざりけり	雁來紅	植物
10257	昭和2年	冬の部	木葉ふるや掃へども水そゝげども	木葉	植物
10259	昭和2年	冬の部	一勺の酒そゝぐべき落葉哉	落葉	植物
10261	昭和2年	冬の部	露ながら主人がくれし柿一ツ	柿	植物
10262	昭和2年	冬の部	むさし野の落葉掃かれぬ細々に	落葉	植物
10263	昭和2年	冬の部	常盤木や青きにひそむ烏瓜	烏瓜	植物
10264	昭和2年	冬の部	往返り柿落葉ふむ斯心	柿落葉	植物
10266	昭和2年	冬の部	木深さを鳴穿ち去る百舌の声	鶇	動物
10267	昭和2年	冬の部	衡宇を望んで落葉踏鳴らす	落葉	植物
10268	昭和2年	冬の部	帰り来て菊の香にあるしばし哉	菊	植物
10269	昭和2年	冬の部	帰りつけバ妻ハ大根引了る	大根引	人事
10270	昭和2年	冬の部	落尽す銀杏葉誰そや掃尽す	落葉	植物
10272	昭和2年	冬の部	草枯や一夢と消えし都の灯	草枯	植物
10273	昭和2年	冬の部	峰のあたり尚しぐるらむよしの山	時雨	天文
10275	昭和2年	冬の部	菊の香のあまりの中に生れけり	菊	植物
10278	昭和2年	冬の部	山賤は櫓に櫻を焚にけり	櫓	人事
10279	昭和2年	冬の部	御方に櫓けふらすな吉野人	櫓	人事
10280	昭和2年	冬の部	堅氷のほとりふし櫓根櫓哉	櫓	人事
10281	昭和2年	冬の部	櫓つみて砦に似たり國の守	櫓	人事
10282	昭和2年	冬の部	雪かぶる櫓や朝々取くづす	櫓	人事
10284	昭和2年	冬の部	此菊を枯らさじと日に省る	菊	植物
10286	昭和2年	冬の部	迦陵嚩伽啄み飽ける果かも	木の實	植物
10290	昭和2年	冬の部	寒日や勅語捧讀奉答歌	寒さ	時候
10291	昭和2年	冬の部	橘緑耀きて禮を行へり	橘	植物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
10292	昭和2年	冬の部	沓ならびたり此日の大霜に	霜	天文
10293	昭和2年	冬の部	講堂の窓の松影山眠る	山眠る	天文
10294	昭和2年	冬の部	物の聲揚がる枯野の阪下に	枯野	天文
10296	昭和2年	冬の部	何すとして枯菊をおく厨かな	枯菊	植物
10298	昭和2年	冬の部	野に山に冬菜一種なかりけり	冬菜	植物
10300	昭和2年	冬の部	せんなしや又灰となる火桶の火	火桶	人事
10320	昭和3年	冬の部	袖ふれんよすがもあらず冬木立	冬木	植物
10322	昭和3年	冬の部	凍解を心に會して起ちにけり	凍解	地理
10324	昭和3年	冬の部	水鳥の黎明さして羽搏ちけり	水鳥	動物
10326	昭和3年	冬の部	寒椿澆ぐに雪を以ってせむ	冬椿	植物
10603	不詳	冬の部	鉢叩とは泣面の竹の函(函)	鉢叩	人事
10604	不詳	冬の部	寺に入る酢賣賢し大三十日	大三十日	時候
10605	不詳	冬の部	大三十日蒟蒻賣を罵しりぬ	大三十日	時候